令和８年

年頭のご挨拶

一般社団法人　北海道電業協会
会 長　藪下　裕己

新年あけましておめでとうございます。令和８年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。会員ならびに関係者の皆さまには、日頃より当協会の活動に対し、格別のご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、全国的に記録ずくめの猛暑となり、北海道においても真夏日、夏日ともに過去最多日数となったほか、９月には道内で初めて線状降水帯が発生するなど、気象条件の変化が作業環境に大きな影響を及ぼす１年となりました。また、北海道・東北地方ではクマの出没が頻発し、山間部に限らず作業現場に新たなリスクも生じました。気象条件を含め自然環境の変化は現場の安全に直結する問題であり、広大な北海道において地域ごとの特性に応じた事前準備や情報共有の重要性はこれまで以上に高まっているものと考えます。

国外情勢に目を向けますと、ウクライナ情勢や中東地域の緊張は依然継続し、資源・エネルギー価格は不安定な状況が続いています。日本初の女性総理大臣が誕生し、戦略的財政出動による経済と安全保障を融合させた政策が始動しましたが、世界的なサプライチェーンの再編や金融環境の変化など、日本経済を取り巻く環境は、引き続き先行きが見通しにくい状況にあります。一方で北海道におきましては、次世代半導体工場の試作ライン稼働、関連産業の集積や、大規模データセンターの立地構想も進展し、地域産業の成長に向けた追い風が強まった１年でもありました。

ただ、こうした中で、私ども業界では少子高齢化の影響による“技能者不足”や“若年者の担い手確保”といった構造的な課題を喫緊のテーマとして抱えています。協会といたしましては、働き方改革にしっかりと取り組みつつ、学校関係者の方々への積極的な PR や業界の魅力発信を推進するとともに、各種講習会や研修の充実を通じ、若い世代に選択され、そして入職されたお一人お一人が自信をもって安心して働くことができる環境づくりを進めてまいります。

また、時間外労働の上限規制へ的確に対応しつつ、労働環境を変えていくためには、業務効率化の推進や生産性向上への取り組みを一層強化し、自己改革していくことが重要です。その上でなお工期の終盤工程を担うことが多い電設工事は、業界内の努力だけでは改善が難しい課題も残されています。当協会では、適正な工期設定や４週８閉所の徹底、さらには受注者の責めによらない工程遅延への適切な対応などについて、官公庁をはじめ発注者各位に対するご理解とご協力を引き続きお願いしてまいります。

電設工事業は、北海道の産業発展と道民生活に直結するライフラインを支える、極めて重要な社会基盤産業の一翼を担っており、エッセンシャルワーカーとして私どもに求められる役割は、ますます大きくなっています。令和８年も、会員が一丸となって、「夢と生きがいのある電気設備工事業界」の実現に向け、取り組んでまいりたいと考えますので、皆さまの変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますます。

結びになりますが、本年の皆さまのご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げるとともに、今年１年が皆さまにとりまして実り多き年となりますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いします。